

## 公表

## 第 9 回若年者ものづくり競技大会「メカトロニクス」職種

## 競技課題と採点基準

## 競技課題

工場の自動生産設備を模擬した競技用 FA モデルを用い、設備の改造、調整、プログラミングや保守を行う。全ての競技課題は非公表であり、各チーム 2 名の選手が連携して作業を行う。

## 第 1 課題 ネットワーク運転

支給された部品と図面をもとに、模擬生産設備の機械装置、電気回路、および空気圧回路を組み替え、調整を行う。さらに、3 つのステーションを組み合わせた模擬生産設備を構築し、仕様書通りワークが搬送されるように動作プログラムを作成する。

## 第 2 課題 トラブルシューティング

第 1 課題で構築した生産設備に複数の不具合（不具合箇所は非公表）があり、設備が正常に動作しない状態にある。設備診断により不具合箇所を特定し、修復を行う。

## 第 3 課題 メンテナンス

第 1 課題で構築した生産設備について、設備を改善するための保全作業を行う。仕様書通りの構成や動作となるように、設備を改造する。

## 競技時間

第 1 課題 競技時間 2 時間 00 分

第 2 課題 競技時間 0 時間 30 分

第 3 課題 競技時間 1 時間 30 分

## 採点項目と配点

課題	採点項目	配点	
第 1 課題 ネットワーク運転	標準課題	20 点	50 点
	応用課題	20 点	
	組立（I/O を含む）	10 点	
第 2 課題 トラブルシューティング	動作	0 点	12 点
	修復	0 点	
	時間	6 点	
	報告書	6 点	
第 3 課題 メンテナンス	動作	0 点	38 点
	分解	23 点	
	組立（I/O を含む）		
	時間	15 点	
		合計 100 点	

※ 順位は、総合得点の高い順とする。総合得点が高得点の場合は、第 1 課題の高得点チームを上位とする。第 1 課題も同点の場合は、第 2 課題の高得点チームを上位とする。全ての課題が高得点の場合は、外観により順位を決定する。

## 第 1 課題

### (1) 組立

- 組立・配管・配線の状態を、チェックシートにより採点する。

### (2) 標準課題・応用課題

- ネットワーク運転の動作を、チェックシートにより採点する。
- 各課題、全項目 OK で合格とする。
- 標準課題が不合格の場合、1 回につき 2 点を標準課題の得点から減点する。
- 標準課題と応用課題は、OK となった項目に応じて得点が与えられる。ただし、標準課題の採点を複数回受けた課題は、最後の採点結果から標準課題の得点を算出する。
- 標準課題と応用課題の両方で満点を取ったチームがある場合の得点計算  
 得点 =  $40 \times \text{仮得点} / \text{全チーム中の仮得点の最高点}$   
 満点を取ったチーム： 仮得点 = 合格した課題の配点  $\times (1 + (\text{残り時間} / 2 \text{ 時間}))$   
 上記以外のチーム： 仮得点 = 合格した課題の配点
- 標準課題と応用課題の両方で満点を取ったチームがない場合の得点計算  
 得点 = 仮得点 + 課題難易度点  
 仮得点 = 合格した課題の配点  
 課題難易度点 = 概ね  $(40 - \text{全チーム中の仮得点の最高点})$  を超えない点

### (3) その他

- 標準課題の不合格回数が計 5 回に達した場合は、競技打ち切りとする。

## 第 2 課題

### (1) 時間点

- トラブルシューティング課題の動作採点、修復採点に合格したチームには、次式による時間点を与える（秒単位で計算）。

$$\text{時間点} = 5 \times \frac{T_s - T_n}{T_s - T_1} + 1$$

$T_s$ : 競技時間（30 分）,  $T_1$ : 提出トップチームの提出時間,  $T_n$ : 各チームの提出時間

### (2) 報告書

- トラブル設定内容に対し報告書の入力内容（修復内容）が合っていること。修復内容の報告は、作業内容が明確であり、修復部位を特定できること。修復方法が不適切なもの、修復部位や作業内容が明確でないものは減点する。  
 減点される例：
  - 「〇〇sta.の配管交換」：どこからどこまでの配管なのか特定できない
  - 「〇〇sta.の右旋回端センサ修正」：修正の内容が不明確
  - 「〇〇sta.の△△センサ故障」：作業内容が不明確
  - 「〇〇sta.の△△センサなし、支給」：作業内容が不明確
  - ハードウェアのトラブルに対し、プログラム修正のみで対処：修復方法が不適切

### (3) 動作・修復

- 標準課題の動作と組立・配管・配線の状態を、チェックシートにより採点する。
- それぞれ全項目 OK で合格とする。
- 2 回目以降の課題提出時は、必要に応じて採点する。
- 動作・修復チェックで NG の場合、リスタート 1 回につき 1 点を第 2 課題の得点から減点する。

### (4) その他

- トラブルシューティング課題の不合格回数が計 4 回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 第 1 課題（継続）の不合格回数が計 2 回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 第 1 課題に関する得点・減点はない。

## 第 3 課題

### (1) 時間点

- メンテナンス課題の分解採点、動作採点に合格したチームには、次式による時間点を与える（秒単位で計算）。

$$\text{時間点} = 12 \times \frac{T_s - T_n}{T_s - T_1} + 3$$

$T_s$ : 競技時間（1 時間）,  $T_1$ : 提出トップチームの提出時間,  $T_n$ : 各チームの提出時間

(2) 動作

- 標準課題の動作を、チェックシートにより採点する。
- 全項目 OK で合格とする。
- 分解採点が不合格の場合は採点しない。
- 2 回目以降の課題提出時は、必要に応じて採点する。
- 動作チェックで NG の場合、リスタート 1 回につき 1 点を第 3 課題の得点から減点する。

(3) 分解・組立

- 分解状態の確認が OK となれば、分解の得点を与える。
- 組立は、組立・配管・配線の状態を、チェックシートにより採点する。
- 分解採点、動作採点ともに合格の場合に限り、組立の得点を与える。

(4) その他

- メンテナンス課題の不合格回数が計 4 回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 第 1 課題（継続）の不合格回数が計 2 回に達した場合は、競技打ち切りとする。
- 第 1・第 2 課題に関する得点・減点はない。

## 競技用設備

持参工具等一覧に示された設備は、参加チームが準備すること。

(1) 競技用 FA モデル（基本 3 ステーション）

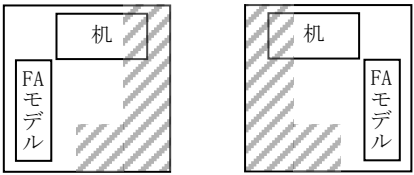
- 設備仕様書に準拠したもの。許可された部位以外の改造は認めない（制御盤内を含む）。

(2) タッチパネル

- 画面はタッチパネル仕様書に準拠したものを準備すること。第 52 回技能五輪全国大会のタッチパネル仕様書に準拠したものでも良い。

競技会場の設備は下表のとおり。会場の事情によっては、多少の変更がある。

- 競技エリア内の配置変更は禁止する。
- 作業台（幅 1500～1800mm、奥行き 750～900mm）・丸椅子を持ち込む場合は、あらかじめ競技委員会に連絡すること。持ち込む作業台の高さは任意とする。
- 設置した機材（蛍光灯等を含む）が競技エリアからはみ出ないこと。
- 各チームのエリアの机に設置する書面立てやホワイトボード等の衝立は、机の上面から概ね 400mm 以下とする（450mm を超えないこと）。観客・審査員からの視界を遮らない場所に設置すること。

	規格	数量	備考
各チームの競技エリア	3300mm×3300mm		審査員用の椅子を下図の斜線部内に設置する 
作業台	1800mm×900mm	1 脚	高さ 712mm 程度（天板コンパネを含む） 中棚なし
丸椅子	キャスター付	2 脚	
電源	AC 100V	計 20A	2P E 付 4 口を競技エリア内に設置